

晩冬の甲斐駒ヶ岳

期 間：平成 28 年 2 月 12 日（金）～ 2 月 13 日（土）

種 別：個人 参 加 者：富岡 山 域：甲斐駒ヶ岳

コースタイム：

2/12 自宅(4:00)⇒竹宇駒ヶ岳神社(7:30)⇒笹の平(9:30)⇒刀利天狗(12:20)⇒五合目小屋跡(13:30)⇒七丈小屋テン場(15:00)

2/13 七丈小屋テン場(5:00)⇒甲斐駒ヶ岳山頂(7:30)⇒七丈小屋テン場(9:00)⇒五合目小屋跡(10:20)⇒笹の平(14:30)⇒竹宇駒ヶ岳神社(16:30)⇒自宅(20:00)

今回は、駒ヶ岳 18 山の最高峰である甲斐駒ヶ岳を黒戸尾根から登った。雄々しい姿を眺めることができずとも、充実した山行であった。

2/12 天気：晴れ後雪

甲斐駒ヶ岳までのアクセスは、中央道長坂 IC から尾白川溪谷駐車場を利用した。尾白川溪谷駐車場から約 10 分歩いた場所にある竹宇駒ヶ岳神社に安全登山を願った後に、1 日目スタート。

この時期のソロテント泊はテント・ザイル・わかん・スコップなど荷が重いが、標高差が 2,200m ある黒戸尾根を選択した自分はマゾヒスト (M) なのか、馬鹿なのかとを感じる道となる。

積雪の少ない笹の平・刃渡りまでつぼ足で歩を進め、コースタイムも悪くない。この時は、翌日の下りが想像以上に苦勞するとは思わない。アイゼンは刃渡りを越えたあたりで装着し、はしごや鎖を利用し、刀利天狗まで到着した。

この尾根道は竹宇駒ヶ岳神社から駒ヶ岳神社奥宮の表参道であるため、社や石仏が点在する。中でも、刃渡り・ヤセ尾根・鎖・はしごを終えた後に到着する刀利天狗は印象深いスポットになる。社や石仏の傾きから永い年月を厳しい風雪に耐えていることがわかる。



【風雪に耐える刀利天狗】

刀利天狗から五合目小屋跡まで緩やかな道であるが、五合目小屋跡から七丈小屋テン場まではしごや鎖が続き、気が抜けない状態が続く。緊張とザックの重みが疲れを増幅させ、コースタイムはダウン傾向であった。

七丈小屋に到着すると、雪が降り始めた。ここから最後の一仕事である。テン場七丈小屋のテン場まで登りきる(冷池山荘のテン場に負けない遠い場所にある)。テントを張るために、スコップで整地や疲れた足で踏み固める。その後、明日のために体を癒すリラックススペースが出来上がる。

2/13 天気：曇り

8合目御来迎場まで急な上り坂を直登する。ヘッドライト頼りの暗がりや、「雪崩、起きないよね」という不安を感じながら、登り続ける。倒壊した石の鳥居を確認するが、残念ながら本日は朝日も山頂も確認できない。

山頂までの道は、傾斜が厳しく、足場が悪い場所がある。アイゼンとピッケルをフル活用し、慎重に足を運ぶ。ガスで山頂も見えない天候であるが、3匹のライチョウが私をリードしてくれる。ライチョウから元気をもらい、山頂に到着したが、何も見えない。けれど、登頂は嬉しいものです。



【髪も凍る甲斐駒山頂】

転倒などの事故に注意しながら、山頂からテン場までを下る。テン場でアツアツのコーヒーを飲みながら、撤収作業を進める。この充実感に満ちた時間は大切だ。

復路は刃渡りまで順調なペースで進むが、その先が予想外だった。シャーベット状の重い雪・雪が薄い部分は凍っている。前日の夜は雨・みぞれだったのか。アイゼンは十二曲がりまで装着し、復路の9割はアイゼン利用だった。雪のコンディションや体の疲労やザックの重荷もあり、想像以上のコースタイムとなった。

竹宇駒ヶ岳神社に無事下山の報告をし、今回の山行を終える。尾白川溪谷駐車場の近くに、道の駅「白州」がある。「南アルプスの天然水」は白州の水である「南アルプスの天然水」が飲み放題・持ち帰り放題である。次回の甲斐駒はここで美味しい水を補充してから、登山道に向かうとしよう。